つゝじヶ丘だより東京

つゝじヶ丘同窓会東京支部会報

発　行　函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部　会長　佐々木　太郎
〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215　　TEL・FAX 03-5609-9881
メールアドレス　〈jimu@td-tokyo.com〉
印　刷　三美印刷株式会社　　題　字　細見　紀子(14 回生)

ホームページURL；http//www.td-tokyo.com

第17回 東京支部 総会・懇親会を開催

5月20日（土）12時よりつゝじヶ丘同窓会東京支部の総会・懇親会が開催されました。

今回で4回目となる目白「椿山荘」での開催でした。当日は晴天となり、出席者も来賓を含め220名を超える皆様にお集まりいただきました。山形有朋別邸であった新緑の庭園を見下ろす、会場一杯の同窓会となりました。また当日は結婚式も多く、華やいだ雰囲気での開催となりました。

総会は学年副幹事長・佐藤雅英君の司会で始まり、高橋順吉副会長の開会宣言、物故者への黙祷、そして学年幹事長・竹澤秀明の議事進行と報告により進められました。内容は昨年度の会計報告、事務局活動報告、全役員の再任と懸案であった会員名簿の整理状況報告等が最高議決機関の学年幹事会で承認されたことの報告でした。ちなみに会員数は千657名となりました。

懇親会で挨拶する佐々木会長

引き続き皆様が楽しみにしていた懇親会が開宴となりました。佐々木太郎会長の挨拶、来賓挨拶として函館本部会長の中山浩一様そして西高校長小松信夫様の乾杯の音頭で始まりました。小松校長から、正式に平成31年4月に西高は稜北高校と統合されることの報告がありました。校舎は我が母校を使用するが、名前は決定していないとのこと。また函館駅から西部地区までの地区では、中学校も統廃合され1校のみとなるショッキングなお話がありました。しかし参加された皆様は2年ぶりの再会を楽しみ、旧交を温める姿が会場の各所で見受けられました。

また前回に続き市野君（17回生）と仲間によるギター演奏が会場を和やかにしておりました。最後は恒例の「港踊り」、校歌斉唱（高女、西高）そして往年の応援団有志の応援歌斉唱とエール発声（高橋団長はじめ、額の血管が切れそうな皆さん）に続き、竹澤学年幹事長の閉会挨拶と一本締めで15時にお開きとなりました

今回ご出席の皆様は、2年後に元気で再会できますように。残念ながら欠席された皆様には、次回の出席を心よりお待ちしております。

学年幹事長　竹澤秀明（17回生）

テーブルごとにハイ・チーズ

つゝじヶ丘同窓会東京支部
総会・懇親会

函館西高つゝじヶ丘同窓会東京支部
第17回 総会・懇親会

函館西高つゝじヶ丘同窓会東京支部
第17回 総会・懇親会

◆17回総会二次会特集

女子高2回生

女性だけとしては、最後の女子高校2回生、85歳。皆それぞれ腰や足痛い処がある。函館から4人参加、11人集まりました。この歳になるといつ何が有っても不思議ないと言いながら又二年先の同窓会で会える様約束して別れました。（成田　慶子）

西高9回生

真夏の様な晴天の午後、同窓会に向かいましたが、二年ごとの同窓会にだけ出席する友に会えるのが楽しみです。故郷はこだての雰囲気満載の時間を過ごし、興奮冷めやらぬまま二次会はカフェ「フォレスタ」へ。函館から来賓で駆けつけられた中山同窓会本部会長と大阪から来てくれた中村関西支部会長を交え、話が尽きませんでした。10月には喜寿祝いの一泊旅行で松島の「一の坊」で集まります。（徳田紀美子）

11回生

今回、11回生の参加者が11名と多く（前回は7名）盛況であった。椿山荘3階のカフェフォレスタで行い、ほぼ全員の10名参加となった。

2月に亡くなったT君の話題、時代小説、ケニヤ関連、築地移転など関係者が居る話題で盛り上がりあっという間の1時間でした。（岩尾紘一）

12回生

総会終了後椿山荘内 FORESTA Café で二次会を開催しました。後期高齢者入り間近の我々の話題は誰ともなく健康と未来の生き方についての話になりました。

真摯な議論へと進むはずでありましたが、ある人物の怪奇で高尚な趣味の告白で真面目な空気はすっかり吹っ飛んでしまいました。あまりのユニークな生き方とその実践の為の日頃の真剣な努力に爆笑し、老境の生き方を議論するのを忘れてしまいました。西高卒業生にも色々な人物がいるものだと思い知らされもした。

五感が鈍り、足腰が弱ろうとも、皺が深くなろうとも旺盛な好奇心と信念を持って行動すれば、おのずと PPK（ピンピンコロリ）の道に通じると思いつつ解散。（最上　龍一）

13回生

総会・懇親会終了後二次会へ9人と欠席者二人と二次会へ繰り出しました。35回生の石馬場さんを誘い同席して貰いました。今回初めての店で有楽町の「きたいち酒場」北海道の福島町（松前の近く）の方の経営だとか。同窓会の楽しみや色々話が尽きず二時間半くらいでした。いつものカラオケは行かず今回はそこでの解散。相変わらず皆さん元気で言いたい放題のおしゃべりでした。二次会での写真撮り忘れたので総会時の写真添付致します。（齋藤　勝美）

14回生

前回に引き続き、新宿西口「北海道」で開催しました。総会には19名が出席しましたが、二次会には16名が参加し29回生2名も合流して行われました。

今回は、余市・函館・仙台・郡山・新潟・京都から出席があり例年になく全国規模？の同期会となりました。遠路の方々から一言ずつ戴きながら会は盛り上がり、3つにわかれたテーブルは各々爆笑で、歳を忘れての一時でした。

その後、飲み足りないグループは西口ガード下の居酒屋「道産子」へ、女性を中心に「喫茶店」へと流れていきました。これまで続けてきた2年ごとの同期会修学旅行をどうするか思案中です。今回も、話が盛り上がり写真を撮るのを忘れてしまいました。（若林　郁雄）

16回生

我々16回生が毎年東京で同期会を催す様に成ってから今年で17回目、お陰さまで古希を迎えました。その発端は、つゝじヶ丘同窓会東京支部から16回生の名簿を譲って頂いた事に始まります。心から感謝申し上げております。

さて、今回は総会の後たった7人で、近くのファミレスでミニミニ同期会を致しました。年1回40名程集まる同期会とは、また一味違って少人数ゆえ話はよく通るし、まとまってそれはそれは楽しいひと時でした。補助金の有りがたさを噛み締めた次第です。ありがとうございました。この様にいろいろな機会を通じて親睦を深める事が出来れば、更に楽しい老後につながって行くと思うのですが・・・？

（猪　しま子）

17回生

今回の総会・懇親会には、10名の参加と例年より少ない同期の集まりで、多少寂しさもありましたが、皆元気で良かった。同窓会は所用欠席の同期も参加しての同期会となりました。

懇親会で飲み食いしたはずが、同期会でも食欲、酒量も上がり盛り上がった会となりました。ここは、椿山荘の近くで16時から開けてもらい貸し切り状態の本格中華料理店で大いに満足出来ました。

次回もここに集まることに決め、秋の同期会（予定）での再会を誓い散会となりました。まだ話足りない女性を中心に喫茶店での3次会もあったようです。（竹澤秀明）

18回生

今回の総会・懇親会には、函館、米国からの参加を含め前回に比べ5名増えて24名で、二つのテーブルに参加者全員が収まり切りませんでしたが、席を替えながら昔話をして盛り上がっていました。その勢いで、20名が二次会に集結しました。

場所は北海道新宿西口店、14回生が二次会で使う場所。紹介して貰ったところ、14回生と18回生は隣の席になり、14回生からお酒の差入れがあったりして、昔、西高御用達の二次会場だった青山メトロ会館での学年を越えた交流を思い出しました。

思い出話に花が咲き、来年は函館でやろうという提案も出て、あっという間の2時間半。この日のために歌を練習してきて、皆に聞かせたい人がいて、三次会のカラオケに。またまた参加が多く12名。全員1曲がノルマ。カラオケでダンスをしたりして楽しみ、21時に解散しました。2年後の再会が楽しみです。（安原　秀樹）

19回生

東京支部総会に19回生は10名参加、その後神楽坂に繰り出し、2次会をやろうということになり、皆帰る気が全然なく、店を探しましたが、居酒屋はまだ営業していなく（16時頃）、ようやく捜しあて、鉄板屋・本多横丁で落ち着きました。

約1時間半、ビール、ハイボール等で話も尽きず、近況報告や昔の思い出を話し合い、解散しました。が、まだ帰らず8人でお茶をしようということになり、19時くらいまでくっちゃべりました。（藤谷敏雄）

20回生

20回生10人に加えて、21回生、27回生各1人の総勢12人での二次会でした。

場所を椿山荘から無料シャトルバスの降車地である池袋に決めたのは、東京支部会報（平成26年11月29日発行）に「我が闘病記」と題するエッセイを寄せてくれた藤川巌さんが奥様同伴で参加してくれたからです。脳梗塞による後遺症で左足と左手が不

自由ながらも、初めての同窓会、そして同期との二次会を楽しんでくれたようです。

今年はさらに、佐藤七実、矢澤弥生、津野田敏子、守屋厚子さんの4人が初めて参加してくれました。私たち20回生は、今年ほとんどの同窓生が65歳を迎え、仕事をリタイアしてようやく自分の時間を取り戻した人も多いかと思います。

次回にはさらに多くの20回生に出席してもらい、青春の思い出話に花を咲かせ、旧交をあたためることができたらと願っています。（井田幸子）

32回生

椿山荘での、第17回総会・懇親会に、初めて参加した同期生も、会の内容に大変喜んで、素敵な一日が過ごせました。と、その日の夜、写真付きでメールが来て、感無量でした。

懇親会の後、高田馬場の居酒屋へ、タクシー3台に別れ、向かいました。吉田先生も、来られて、話に一層、花が咲き、盛り上がり、次回の懇親会もまた、楽しみに思います。（佐々木雅子）

◆回生だより

東京地区二期会を開催　恩師も元気に出席

今年も10月7日(土)、函館西高第二期生(昭和27年卒業)の東京地区同期会が例年同様　銀座四丁目銀座クリスタルビル(通称フジヤビル)7階の桃杏楼で行われました。午前中は雨模様で果たして全員が予定通り出席して貰えるか心配しましたが雨も開会の正午にはあがり予定通り無事実行されました。

本年は毎年のように参加者が少なくなっている中で62人に案内状を出しましたが、参加者が26人と昨年の22人より4人多い参加者でほっとしました。我々二期生は昭和8年と9年生まれの満84歳以上の方々がメンバーですが、中には車椅子の方や付き添いの一緒の方も居ましたが、皆元気に西高時代同様に談論活発で敬語抜きや渾名での呼び合いが方々で出るという状態で、正午から午後四時までの四時間喋り通しの状態でした。

流石にアルコール類や食事の量は大分減って来ましたが、お喋りの方は全く昔通りの賑やかさでした。我々同期性は、旧制中学校・高等女学校の最後という事もあり函中・市中・高女・女子商業各校からの生徒の集まりという事もあり話題が特に多い様でした。恩師としては、例年同様　大谷泰子（旧姓工藤泰子）先生がお元気な姿を見せて頂き我々一同大いに感激しました。遠く札幌からも4名・鶴岡からも1名見えられ楽しい話題に色を添えられてくれました。

毎回の様にこの会も「今回で終わり」などと皆高齢者ぶっていますがこの調子だとどうもやめられそうもありません。年に一回の集まりですが、本当に有意義で楽しい若返りの会だと考えておりますので、年々参加者は少なくなるのは止むを得ませんが皆元気でいる限り何とかこの西高二期会を今後とも続けていきたいと考えていますのでよろしくお願い致します。（納代　鉄也）

◆特別寄稿（4）

乞食の万平さん・臥龍窟・庁立高女

廣瀬菊枝（16回生　函館在住）

石川啄木の歌に「むやむやと口の中にてたふとげの事を呟く　乞食もありき」という短歌があります。この歌は「一握の砂」の「忘れがたき人々」に納められています。作品中の乞食こそ、明治から大正にかけて函館の名物男で名を万平といい、ユーモアと学があり、毎朝ゴミ箱を探し歩き、その家の人物評を日記風に書き残していた人物です。

庁立高女隣の船魂神社裏手の洞窟（臥龍窟）に住んでいて、夜が明けるとステッキを手に船見町から元町青柳町あたりを胸を張りニコニコしながら歩いていたといいます。毎月1日と15日は、八幡宮の祭りで境内に乞食が並んでいましたが、万平はそういう所へは姿を見せず、物乞いは一切せず、ゴミ箱漁りに徹していたのです。

しかし、一般の人々にも人気があったようで、近所の主婦や学校帰りの生徒達が洞穴に立ち寄っていたらしいのです。庁立高女の女学生は万平や啄木と登校下校時、「この坂

道」で出会っていたかもしれません。万平が塵紙に書き付けていたという日記（明治39年）に高女の女学生が登場していますので一部抜粋して紹介します。

11月2日　終日雨降る。シラミの包囲攻撃を受け無聊（退屈）なり。

11月3日　朝から小雪降る。初雪なるべし。足無しの兄来る。天長節（明治天皇誕生日）を祝さんという。足無しの兄の話によれば　近来不景気により世間は騒げども、乞食仲間は足ることを知れども、世間の人々は足ることを知らざるの結果也。

11月8日　焼場（火葬場）に遠足運動す。指なしの夫婦、天保銭兄弟等集合して貰い物の分配に付き協議中也。吾輩も臨時加入して其議参与す。協議の内容は秘密に属するをもって日記に書くことを得ず。帰る時、握飯2個、漬物、煮〆を各々竹の皮に一包を貰い受く。夕方あんどん袴をはける女学生らしき婦人3名訪問し来る。即ち、吾輩の女子に対する意見を述べる。

元来世間には女子を玩具品と心得居る也。これ故にその外貌の善ならんを欲す。衣服の盛ならんを欲す。化粧品に金銭の多くかからん事を欲す。精神涵（うるおう）に至りては皆無というも可也。婦人諸君同意見也とて嬉々として帰る。

啄木は、お天道様の下を家とし哲学を持った自由人万平に関心をよせていたようで、明治40年8月25日の大火について記した手紙に、「万平君の臥龍窟も焼け申し候、見舞にゆき申し候処、焼跡より何か拾ひ居候ひき挨拶例の如し」とあります。

大阪から所用で来た鉄工場主が、道端の万平に煙草の火を借りようとした際、「帽子も取らずに」と詰られたが、その人柄に感じ入り、大正4年万平の死後、本御影石で造った五輪の供養塔「万平塚」を建立（船見町・地蔵寺）、ここに葬られています。

万平さんの話は、祖父、父から礼儀作法のたとえ話でよく聞かされたものです。昭和57年西高大改築に携わった建設会社役員塩崎氏は、当店志るこ屋のお客様でしたが、船魂神社左上「洞穴」について伺う機会がありました。体育館の工事に先立ち土壌調査中に大きな空洞に遭遇、工事は大幅に遅れたそうです。また、江戸時代には賭博場にも使われ、奉行の手入れがあると、函館山側に秘密の出口があり逃げ口も備えていたことを元産婦人科医岡本氏からも伺いました。昭和に入り、防空壕、旧軍通信施設、弾薬庫等、その時代に様々な使われ方をした洞穴が我が母校に隣接していたことは興味深い話です。万平さんをご存知でも、洞穴の歴史はご存知ない方が多いのでは。

日常の立ち振る舞い、紙に書き綴る文体、知性、その所作等から本州の何処かの藩の末裔で、武士の子孫であったのではと勝手に想像してみました。明治政府の政策により蝦夷地に開拓等で渡って来たものの夢破れて函館の地に流れ、天涯孤独を謳歌していたに違いないと想うのです。

戦後私達が育った函館西部地区の神社仏閣の境内にいつも乞食のおじさん達が居て子供達と共存していたことを想い出しています。函館は大金持ちから乞食のおじさんおばさん達まで、「お互い様精神」の人々が共存できた、人生色々の地方大都市であったのです。(2017.10)

はこだて元町　志るこ屋　菊

◆投稿

おじさんぶらり一人旅（その1）

野口　卓史(27回生)

早いもので、この4月に関東での単身赴任生活も10年目に突入しました。当初3年間との話が、あと2年、あと1年と、どんどん延び、ついに来年の12月60歳の定年まで延びることになりました。

独身気分をいいことに、時々マイル消化で一人旅に。この5月末の土日には沖縄へ行って来ました。沖縄は3回目です。1回目は「ひめゆりの塔」「平和祈念公園」と「ちゅら海水族館」をメインに、2回目は日本の夏の花火大会の口火を切る「海炎祭」と「首里城」「沖縄博物館」「海軍司令部壕」、そして今回は「対馬丸記念館」と民謡居酒屋です。

土曜の昼前に到着、旭橋近くの「ジャッキー・ステーキ」でテンダーロイ

ン・ステーキの昼食、そのあと「対馬丸記念館」へ。今年、対馬丸の本を読み、訪れた次第です。対馬丸は米軍の潜水艦により沈められた疎開船ですが、1400名以上の犠牲者を出し、また学童が主体だった悲劇の船です。遺留品もほとんど無く、かえってそれが悲惨さを増しておりました。疎開は避難の面もありますが、軍の食糧確保の面も強く、またろくに救助活動もされていない事にもショックを受けました。子供たちの無念さはいかばかりだったでしょう。沖縄は本土の盾にされて、今も基地問題を抱えています。基地問題は、沖縄の問題では無く日本の問題として各人が考えるべき問題と思います。

記念館を出て、泊ふ頭近くのホテルにチェックイン、ひと風呂浴びて汗を流し、国際通りへ。とりあえず中ほどから県庁前方向へ、折り返し反対側の歩道を牧志まで行き、また戻って、ターゲットにしていた民謡酒場へ。ここはドラッグストアの店内を通って2階に上がっていく店でした。かなりすいていて、一人なのでカウンターでしたが一番前で、ステージの正面の席でした。料理は沖縄料理のコース3千円に飲み放題千円付けて4千円とリーズナブル。ビール2杯、レモンサワー2杯、泡盛と飲んだところで、ちょうど30分程のステージの2回目が終わったところで退店。1回目の終わりにはカチャーシーも経験しました。ただお客さんが少なく、いまいち盛り上がらず。そのあとネーネーズの出演する店に行ってみましたが、残念ながら当日はネーネーズの出演なく、ホテルへ。

次の日は、ゆっくり起きて朝食のバイキングのあと、お風呂に入り、10時にホテルをチェックアウト。モノレールで首里まで行って牧志まで戻り（ただ乗って景色を眺めてただけです）、国際通りをお土産探しながらぶらぶらと県庁前まで。お土産は宮古の「雪塩」とカラフルな星の砂の小瓶（1本50円）。昼少し前に空港へ。空港の1階の隅にある食堂で、沖縄そばを。昼過ぎの飛行機で帰ってきました。

今回は、急に決めたので、飛行機の空きがなく、昼について次の日の昼に帰るという、滞在時間も短い旅でしたが、回るスケジュールも特に決めないでいったので、観光というよりは息抜きといった感じでした。沖縄、みなさんも機会ありましたらどうぞ。出来ましたら観光と併せて、戦跡も訪れてみたらいかがでしょうか。

山岡鉄舟の魅力

江戸城無血開城の立役者――

森真沙子著「時雨橋あじさい亭」を読んで

竹澤秀明（17回生）

幕末の三舟の一人「山岡鉄太郎（鉄舟）」の青年時代を描いた時代小説である。一般的に江戸無血開城は、勝海舟・天璋院篤姫・皇女和宮が西郷隆盛の江戸総攻撃を中止させたというのが通説だが、西郷隆盛と海舟の会談前に鉄舟が徳川慶喜の命を受け、総攻撃の中止を懇願したことが大きな要因と言われる。この時の鉄舟の言動により西郷が総攻撃中止の気持ちに傾き、最終的に海舟との会談で中止が決定したと思われる。この西郷を懐柔させた「豪胆さと先を見る目」を持つ古武士・鉄舟の若き日の物語である。

現在第3巻まで発表されている。江戸小石川にある「あじさい亭」という煮売屋（惣菜販売を主とする居酒屋）の主人徳蔵と手伝いの娘お菜の目を通して、鉄舟を中心に幕末の江戸を描いている。

歴史好きの私に取っては興味が尽きない人物が登場する。鉄舟は9歳で真陰流、16歳で北辰一刀流、21歳で幕府「講武所教授」そして明治になって無刀流を開き、千葉道場で鬼鉄といわれた剣豪である。しかし剣術以外には無頓着で石高の低い山岡家の婿養子となった。妻女となった「お英」も似たもの夫婦のさいたるもので、極貧幕臣生活を嫌うどころか、楽しんでいる。お英の兄が高橋泥舟（山岡家から母方の高橋家を継ぐ）で鉄舟の義父、山岡静山の弟である。静山、泥舟ともに槍術の使い手である。両家は隣同士。このころ尊王攘夷の風が吹き始め、幕臣である鉄舟、泥舟ともに尊王の心を持っていたがため、清河八郎なるものと接触することになる。しかし清河は「尊王攘夷」でありながら幕府を騙し「浪士組」を組織させ京都に

上京させたが、攘夷を強めたため幕府ににらまれ江戸へ戻らされた。この時指揮していた泥舟、そして清河と親交があった鉄舟も責めを負い謹慎処分とされた。

鉄舟の一部のみを知る私にとっては、目から鱗である。また清河と鉄舟の関係、特に幕府に追われる清河をかくまったが暗殺される。しかしその首をさらし首にしないよう対応した。また清河が組織した「虎尾の会」も書かれており、改めて歴史を調べる心境になった。ノンフィクションのなかのフィクションもあるが、歴史の流れに沿って興味を持って読み進めた。江戸総攻撃を中止するよう西郷に直談判に行く下りの「望嶽亭」からの脱出とその際ピストルを預ける場面は、私が東海道53次を旅した際、見学させてもらったので記憶に残る下りである。

また江戸の見世物小屋、団子茶屋などを通して庶民生活が生き生きと描かれている。そこには全編を通して「情の鉄舟」が描かれている。この後のシリーズでは幕末から明治の鉄舟が描かれると思う。坂本龍馬には中岡慎太郎、勝海舟には山岡鉄舟がいた。もっと鉄舟を見直し、前面に出す作品があっても良いと思う。

（開基鉄舟居士肖像　全生庵所蔵）

本部・支部との交流

本部総会・懇親会

副会長　高橋順吉(17回生)

本部同窓会総会・懇親会は10月6日(金)18時から五島軒本店で総勢219名の出席で盛大に挙行されました。総会進行は幹事長若山央氏(17回生)の司会で開会宣言、物故者への黙祷、中山浩一会長の挨拶、校長代理の藤島尚子教頭の挨拶の後議事進行に入りました。

総会終了後懇親会に入り当番幹事27・39・67回生代表の野口卓史さん(東京支部役員)の挨拶が有り、現役西高生吹奏楽部の元気な演奏とパフォーマンスを聞き生徒退場後乾杯となりました。大阪支部長中村浩氏の乾杯音頭で開宴しました。

現役西高生の活躍や90周年、110周年DVDが流されました。参加最高年齢者三村静子さんへの記念花束贈呈が有り、古希(17回生)の記念品はクリスタルの置物でした。

握手会が行われ、女性が全員ステージ前に整列し、男性が全員と握手して行くうちに不思議な安心感が湧きました。

校歌斉唱の後、大応援団旗（3m×4m）を有志に翻してもらい応援歌No.2を高らかに、高女・女子高・西高のエールを18期能登谷公君19期川瀬俊吉君と高橋が送りました。

札幌支部総会・懇親会

広報部長　若林郁雄(14回生)

10月21日（土）17時より中島公園に近い「ホテルライフォート札幌」で開催されました。黙禱のあと浅野元広支部長（18回生）の挨拶、総会議事、一部役員改選が有り、支部長挨拶の中で支部の名簿数が907名、出席者が47名、高女が37名で1～39回生が870名との報告がありました。

総会の出席者の最高齢は4回生で若い方は38回生、壇上で出席者全員の写真撮影。

懇親会では、小松信夫校長が療養中のため石井勝教諭（同窓会学校事務局）と本部副会長の毛利悦子氏が挨拶され、共に西高と稜北高校との統合計画に関してのお話が主でありました。東京支部からの来賓として若林が挨拶と祝杯を挙げて開始されました。宴が進んで全員の自己紹介とスピーチがあり、素晴らしい賞品のビンゴゲームで最高潮、応援歌・校歌斉唱・乾杯とあっと言う間の2時間でした。

引き続き、ホテル内で場所を移し二次会が用意され、カラオケや懇談で遅くまで盛り上がっていました。

関西支部総会・懇親会

会長　佐々木太郎（14回生）

11月12日大阪曽根崎の寿司屋で開催された、関西支部総会・懇親会に6年ぶりに出席しました。出席者は3回生から23回生までの11名で、こじんまりとした懇親会でしたが、各人が時間をかけて近況報告や函館への想いなどを語って、密度の濃い集いとなりました。

本部からは来賓として中山同窓会長がお見えになり、挨拶の中で、統合後の校名は来年9月頃に決まりそうとの見通しが示されました。

関西支部は人数が少なくなり、かろうじて2年に1度の総会・懇親会を開催していますが、函商や函工など他の函館の高校の同窓会も同様のようで、いずれは合同の会を開催するようになるのではないかと、中村関西支部会長は言っていました。

東京支部ゴルフ会報告

学年幹事長　竹澤秀明（17回生）

今年も東京支部西高同窓生によるゴルフ会(第5回)が、10月6日(金)に茨城県取手桜が丘ゴルフクラブで開催され3組10名の参加でした。今回は9回生の森英爾さんをはじめ、小嶋俊明顧問、若林郁雄広報部長が久しぶりに参加されました。天気も極端な暑さもなく良いゴルフ日和でプレーが出来ました。

さすがに今回は、若年会員(多少)が日頃の練習成果を発揮し好成績を出し上位を取りました。優勝は青木保さん(21回生)、準優勝は藤谷敏雄さん(19回生)、3位は長谷川好広さん(32回生)でした。ベスグロ賞は藤谷さんの83。長谷川さんも89と7人が95以下の成績でした。

ある組では、オリンピックゲームを行い、俄然豹変したプレーをした方もいたようで、楽しい中にも真剣な1日を満喫できました。

最後に来春（4月12日）に開催される臥牛会(以前の巴会)コンペに向けて健康に留意して再会できるよう誓い散会となりました。

会員登録は事務局又は左記世話人迄ご連絡下さい。

三村寿雄(13回生)090-8513-4497
竹澤秀明(17回生)090-6707-7092

事務局活動報告

事務局長　斉藤勝美(13回生)

(平成29年6月～11月)

○第2回学年幹事会開催(7月29日)
・総会懇親会の会計報告
(総費用216万円、4万円黒字、本会計に繰り入れ)
・二次会の開催状況報告(13同期会に補助金支給)
・反省、改善点討議
(配席、進行、キャンセル料、食事、港踊り等)
・次回総会予定(2019年5月18日)
○事務局会議開催(2回)
・学年幹事会準備会議及び会報第19号編集会議
○本部、各支部、在京他校同窓会への出席

会員の皆様にお願い

東京支部活動の充実のために
年会費(2千円)納入にご協力を

同窓会は年会費と総会・懇親会会費で運営されています。同窓会活動を今後とも維持・活性化していくために、会員の皆さんのご支援を宜しくお願い申し上げます。

☆同期会開催へ補助金

同期会を開催した場合に、開催報告をホームページに掲載することを条件に**年一回五千円の補助**をしております。申請書は支部ホームページからダウンロードできます。

《編集後記》

○第17回総会・懇親会も無事成功裏に執り行われ、その報告が今号の特徴です。前々回の学年幹事会で、出席された皆さんの記念写真を掲載できないかとのご意見があり、頁増で実現しました。写真は事務局の山越准司さん（32回生）にお願いしました。改めてお礼申し上げます。

○引続き、廣瀬菊枝さん（函館在住）による函館の歴史を掘起した寄稿を掲載しました。今後もご期待を。

○発行日も迫り、この季節一雨ごとに寒さが増して来ます。同窓の皆さま、どうぞご自愛を。

（若林郁雄　14回生）

出来事や思い出、旅行などの「投稿」をお待ちしています。